立原正秋 小説家。韓国で生まれ日本で生活、屈折した体験を背景に、詩情と通俗で人気を得たが、早世した。

たちはらまさあき
円本時代始・1926 =

大韓民国の慶尚北道で禅寺の僧金敬文の長男に生まれる。

満州事変・1931 = 5歳：父が寺の修築工事の心労で病死。

五一五事件・1932 = 6歳：母に連れられ安東市に移る。

国際連盟脱退1933 = 7歳：尋常小学校に入学。

芥川直木賞始1935 = 9歳：母が姉の嫁ぎ先の横須賀市の家を頼って渡日し、安東市で医者をしていた叔父に預けられ、転校。

二二六事件・1936 = 10歳：叔父が済州島に赴任し、あとに残されたが、

日中戦争始・1937 = 11歳：叔父の九州帝国大学研究員となるのに連れられ、渡日、横須賀の母の嫁ぎ先に移る。

健保+総動員 1938 = 12歳：横須賀の尋常小学校5年に編入。

第二次大戦始1939 = 13歳：横須賀商業学校に入学。塾に通って剣道を習い、文学書に親しみ始める。

大政翼賛会・1940 = 14歳：創氏改名令により、金井正秋となる。

日米開戦・1941 = 15歳：国語漢文教諭の依田正徳に傾倒、日本での初めての知己となる。弟の同級生の姉米本光代と知り合う。川端康成、小林秀雄に尊敬の念と親近感を抱く。

創価学会検挙1943 = 17歳：繰り上げ卒業。

年金+総武装 1944 = 18歳：韓国の郷里附近や大和路を旅する。蔵書を預けたり、買い出しなど、光代と行動をともし、交際。

敗戦・1945 = 19歳：早稲田大学専門部法律科に入学したが、勤労動員令で日本鋼管鶴見工場に通ううち、敗戦となる。

新憲法公布・1946 = 20歳：早稲田大学文学部聴講生となり、教授の主宰する懸賞小説に応募、幻の処女作「麦秋」が入選。

新憲法施行・1947 = 21歳：光代の実家で結婚生活に入る。

極東裁判判決・1948 = 22歳：婚姻届が受理され、日本人米本正秋となる。長男誕生に際し、詩「言祝ぎの日」を創る。

朝鮮戦争始・1950 = 24歳：鎌倉に転居、以後、市内での引っ越しが続く。勤めず、無頼な生き方をしながら古典に沈潜。

独立回復・1951 = 25歳：丹波文雄主宰(文学者)に立原正秋名の最初の短編「晩夏 - 或は別れの曲」掲載。

メテ-事件・1952 = 26歳：鎌倉の「日の会」に参加、文学を語る友を得る。

TV放送始・1953 = 27歳：長女誕生。

自衛隊発足・1954 = 28歳：藤沢市の薬品会社のセールスマンをしたのち、

55年体制始・1955 = 29歳：以降3年、鎌倉市の町内会の夜間警備員を勤めた。

国連加盟・1956 = 30歳：処女作「セールスマン津田順一」を発表。同人雑誌(近代)を創刊し、編集。評論「イエスとユダ」や、

なべ底不況・1957 = 31歳：「梶のある家」を発表して終刊。

ウズカタ-マ・1958 = 32歳：*{群像}に「他人の自由」が掲載される。

安保闘争・1960 = 34歳：以後、次々と創作するようになり、

タイタイ病始・1961 = 35歳：「八月の午後」と「四つの短編」により、

全国総合計画1962 = 36歳：第二回近代文学賞。「白い罌粟」を脱稿。

東京リボルヴ 1964 = 38歳：同人雑誌{犀}を創刊。「薪能」が芥川賞候補となる。

大学紛争始・1965 = 39歳：「剣ヶ崎」が芥川賞候補、「漆の花」が直木賞候補となる。発表された「白い罌粟」で、

いざなぎ景気1966 = 40歳：*直木賞を受賞。「剣ヶ崎」が上演された。人気作家となり、以後、毎年10を超える作品を発表。

美濃部都知事1967 = 41歳：{犀}が終刊。

霞ヶ関ビル・1968 = 42歳：{早稲田文学}編集長を引き受ける。「立原正秋初期作品集」。

大阪万博・1970 = 44歳：鎌倉に新居落成。*長編「冬の旅」がベストセラー3位となった。

ドミノショック・1971 = 45歳：*{諸君}に発表した「男性的人生論」が物議をかもし、{潮}に変える。ヨーロッパ旅行。

石油ショック1973 = 47歳：「きぬた」。29年ぶりに訪韓。

角栄金脈辞任1974 = 48歳：「夢は枯野を」。「立原正秋選集」。

クランブル事件1975 = 49歳：母が死去。「冬の旅」が上演された。

革新大敗北・1979 = 53歳：身体不調になり、会合をすべて欠席、

貿易摩擦問題1980 = 54歳：*入院後も執筆を続けたが、米本姓を立原姓に改めた直後、食道癌により没した。